

第8章 県民参加型環境教育・学習の推進

今日の環境問題は、生活排水による水質汚濁や自動車の利用増大による大気汚染・騒音、消費の拡大による廃棄物の増大など身近な問題から、地球温暖化、オゾン層の破壊などの地球規模の問題まで、複雑多様化しており、これらの環境問題に対応するためには、県民一人一人が日常生活と環境との関係について理解と認識を深め、環境に配慮した責任ある行動をとることが不可欠と考えられる。

このため、家庭、学校、地域など多様な場で、それぞれ年齢階層に応じた環境教育・環境学習の推進が必要である。

第1節 学習機会の拡充

1 環境マイスター派遣事業

県民が自主的に環境学習に取り組む際の支援制度として、県内に在住する環境活動のリーダーや研究者などを専門分野別に「環境マイスター」として登録した。地域の環境活動グループや町内会、PTAなど各種団体が学習会や講演会などを開催する場合に、マイスターを講師として派遣している。

- ・派遣先 地域環境活動グループ、PTA、自治会、その他各種団体等が行う環境学習会等で、県民を対象として、参加者が概ね20名以上で、政治、宗教及び営利を目的としないもの。
- ・申請等窓口 派遣を希望する団体等の受付や、派遣に適した環境マイスターの選定等は、エコライフサポートルームのエコライフ推進員が行う。
- ・登録内訳 事業系環境保全部門17人 生活環境保全部門19人 自然環境保全部門26人
- ・派遣経費 環境マイスターの派遣に要する経費は、県が負担する。



環境マイスター活動状況

2 えひめ環境大学



環境関連の専門の実務者や環境保全活動者などに、より高度な環境知識を修得してもらうため、学識経験者や環境分野の専門家を講師として迎え、専門的で質の高い講義内容の「えひめ環境大学」を実施した。平成13年度はメインテーマを「化学物質問題の最前線」に設定し表1-8-1のとおり開催した。

受講者は40人（特別公開講座は約100人）で、5回中4回以上の受講者には修了証書を交付した。

表1-8-1 えひめ環境大学の開催実績

年月日	演題及び講師	場 所	備考
13.7.7 (土)	「化学物質問題の現状と最前線」 愛媛県環境創造センター 所長 立川 涼	衛生環境研究所	
13.7.14 (土)	「循環型社会に向けた化学物質対策」 国立衛生研究所 循環型社会形成推進・廃棄物研究センター センター長 酒井 伸一	テクノプラザ愛媛 (テクノホール)	特別公開 講座
13.7.28 (土)	「化学物質の環境ホルモン毒性」 岡崎国立共同研究機構 統合バイオサイエンスセンター生命環境研究領域 教授 井口 泰泉	テクノプラザ愛媛 (テクノホール)	特別公開 講座
13.8.18 (土)	「ゼロエミッションと化学物質」 松山大学人文学部 助教授 小松 洋	テクノプラザ愛媛 (一般研修室)	
13.9.1 (土)	「環境分析と数字の見方・考え方」 愛媛大学農学部 教授 脇本 忠明	テクノプラザ愛媛 (一般研修室)	

3 こどもエコクラブ事業

持続可能な社会を創るためには、21世紀を担う子ども達が将来に渡り環境を大切にす
る意識を持ち、環境にやさしい暮らし方を実践していくことが必要であるため、環境省
では、平成7年度から「こどもエコクラブ」事業を通じて、子ども達の地域の中での主
体的な環境の学習や実践活動を支援し、県では、その普及啓発を図っている。平成14年
10月10日現在の登録数は、6市2町、52クラブで会員数1,048人である。

4 高等学校環境教育推進事業

環境教育の一層の充実を図るため、平成11年度まで実施した「地域に根ざす環境教育
推進校設置事業」等の実践活動を基盤として、新たに「高等学校環境教育推進事業」を
平成13年度から実施することとした。

この事業は、高校生が身近な環境問題に積極的に取組むとともに、地球的・国際的視
野を持って実践することができる生徒の育成、さらにはリーダーとなる生徒の養成を目
的とし、「高等学校環境教育実践研究校」の指定、「高等学校環境教育実践研究校研究
協議大会」の開催、「環境教育実践活動事例集」の作成・配布を三本柱としている。

(1) 高等学校環境教育実践研究校

概 要

平成13年度から5年間で全日制57校のすべての高等学校を環境教育実践研究校と
して指定し、研究を進めることとしている。

環境教育実践研究校は、次に示す6つの分野の中から、1分野を選び、生徒や学
校の実態を踏まえた高校生にふさわしい具体的テーマを設定して、家庭や地域との
連携を図りながら計画的・継続的に研究を行うこととする。

《研究分野》

- ア 河川や海洋に関する分野
- イ 土壌や動・植物に関する分野
- ウ 酸性雨や大気に関する分野
- エ 廃棄物に関する分野
- オ 国際的な環境に関する分野
- カ その他の分野

取 組

環境教育実践研究校では、生徒や学校の実態を踏まえ、高校生らしい深まりのある探究活動を行うとともに、インターネット等を利用して地球規模の視点で環境問題について取組んだ。各学校の取組は表1 - 8 - 2のとおりである。

表1 - 8 - 2

学 校 名	研究分野	研究テーマ	取 組 の 内 容
新居浜南高等学校	河川や海洋に関する分野	尻無川の環境改善と保全	<ul style="list-style-type: none"> ・尻無川の実態調査（ゴミの投棄や生活排水の状況） ・環境教育意識調査（生徒・保護者） ・除草美化奉仕活動（全校一斉、新居浜市の協力） ・地域住民への広報活動（啓発ポスターの掲示）
今治東高等学校	その他の分野	私たちの身近な環境問題の解決を求めて	<ul style="list-style-type: none"> ・野外セミナーでの清掃・奉仕活動 ・講演会（地球環境問題の特質：松山大学水閣助教授） ・桜井海岸の清掃（ゴミ510トン、うち空き缶52kg） ・カプトガニの調査と保護活動 ・環境についての新聞記事収集
今治工業高等学校	その他の分野	今私たちにできること	<ul style="list-style-type: none"> （生徒、学校全体の取組） ・オゾンホールについての授業 ・地球温暖化のビデオ活用 （各学科での取組） ・空き缶つぶし機の制作とマシンオイルの回収 ・環境に関するポスター制作と展示 ・調べ学習（インターネット） ・環境教育についての講演 ・環境標語の募集
大三島高等学校	廃棄物に関する分野	大三島のゴミ処理問題とリサイクル	<ul style="list-style-type: none"> ・奉仕活動への参加（島民清掃活動への参加） ・グループ別調査研究 〔ゴミ処理の現状、ゴミ問題とリサイクル、水不足と節水、世界のゴミ事情、上下水道について、地球温暖化防止対策〕 ・環境家計簿への取組（ゴミの減量化と二酸化炭素の排出）
松山北高等学校 中 島 分 校	廃棄物に関する分野	中島町における一般廃棄物の処理	<ul style="list-style-type: none"> 中島町の環境汚染の現場調査 ・生活ゴミ処理状況について（クリーンセンターでの体験とリサイクル状況の調査） ・生活排水やし尿処理の状況（生活排水の出し方）
上浮穴高等学校	その他の分野	私たちの手で守ろう豊かな森林 - 森林・林業の環境に果たす役割 -	<ul style="list-style-type: none"> ・環境点検地図作成と環境フェアへの参加（地域の森林、農耕地、農村、河川の観察結果を記録） ・親子木工教室の開催と間伐材を用いたガーデニング用品の製作 ・石鎚山系における森林野外活動 ・上浮穴郡内の環境調査（温度、湿度、マイナスイオン）
長浜高等学校	その他の分野	長浜高校を取り巻く環境 - 見直そう私たちの町・私たちの生活 -	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームルーム活動の充実（限りある資源、ゴミ問題とリサイクル、地球への恩返し等） ・長高クリーン運動 ・節約の日（省エネルギー効果） ・海洋生物の調査
八幡浜高等学校	酸性雨や大気に関する分野	地球温暖化防止のための取組（わたしたちにできること）	<ul style="list-style-type: none"> ・学校での節電状況調査（消費電力の昨年度との比較、節電への呼びかけ） ・整備委員会だよりの発行 ・ケナフの栽培と紹介
三瓶高等学校	土壌や動・植物に関する分野	土壌動物と植生による家や学校周辺の環境の調査研究	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌調査（町内の各地点における土壌生物の量と種類） ・町内の植物調査（森林の植生、相観、林床、土壌の調査から植生図を作成） ・校内刊行物での取組紹介
宇和島南高等学校	河川や海洋に関する分野	神田川を蘇らせよう	<ul style="list-style-type: none"> ・神田川水系の水質調査（化学的、生物的調査） （生活排水実態調査） ・神田川の悪臭を科学的に分析
津島高等学校	河川や海洋に関する分野	清流岩松川の水質検査と宇和海沿岸の環境調査を通して環境問題を考える	<ul style="list-style-type: none"> ・環境委員会の設置（インターネットによる情報収集） ・岩松川の水質調査と聞き取り調査 ・岩松川河原の美化活動 ・環境委員会による環境問題討論会 ・宇和海沿岸の海水温度調査 ・調査結果の発表

(2) 高等学校環境教育実践研究校研究協議大会

目 的

環境教育実践研究校として指定を受けた学校から代表生徒と指導教員が参加し、

各学校の活動成果や課題を発表したり、研究協議や先進的な取り組みをしている講師による講演等を行ったりして、環境教育の改善や充実を図る。

大会の開催

平成14年2月12日に、県民文化会館において研究協議大会を開催し、実践研究校の代表生徒が各校の活動状況や成果を発表したり、「環境問題から学んだこと」をテーマにパネルディスカッションを行ったりして学習を深めるとともに、環境問題を専門的に研究している愛媛大学農学部鶴見助教授の講演を通して、新たな視点からの取り組みを決意することができた。

(3) 高等学校環境教育実践活動事例集の作成と配布

各高等学校への普及と活動内容の深化を目的とし、環境教育実践研究校11校の実践研究の結果をまとめた事例集を作成して、全ての高等学校に配布した。

各学校においては、高等学校環境教育実践活動事例集を参考に、創意工夫を生かした取り組みを通して、環境保全やより良い環境のために主体的に行動できる生徒の育成に努めている。

5 省資源・省エネルギー運動推進事業

省資源・省エネルギー運動を県民運動として推進し、県民意識の高揚を図るため、各地方局ごとに推進大会及び展示会を開催（表1-8-3参照）したほか、リーダー研修会を実施するとともに啓発資料の作成・配布を行った。

(1) 省資源・省エネルギー推進大会及び展示会

表1-8-3

地方局	開催場所	開催年月日	内容
西条	西条市総合文化会館	H14.2.22	・講演会
今治	今治市民会館	H14.2.7	・実践事例発表
松山	松山地方局	H14.2.19	・リフォーム作品
八幡浜	大洲市総合福祉センター	H14.2.13	・パネル展示
宇和島	宇和島地方局	H14.2.5	・ビデオ上映 等

(2) 省資源・省エネルギーリーダー研修

省資源・省エネルギー運動の担い手である地域のリーダーを集めて、省資源・省エネルギーに対する意識を高め、さらに活動の輪を広げていくことをねらいとして研修を行った。

- ・開催場所 八幡浜地方局会議室
- ・開催日 平成14年3月8日
- ・参加者数 23名

(3) 啓発資料の作成・配布

啓発リーフレットを3,000部作成し、省エネルギー月間（2月）に配布した。

第2節 多様な環境情報の収集と提供

1 えひめの環境ホームページ

本県の環境情報を県民に広く提供するために、平成13年7月に「えひめの環境ホームページ」を開設した。このホームページでは、環境施策全般に関するお知らせ、環境関係条例、環境影響評価、環境白書等の情報を提供し、随時、内容の更新を行っており、常に最新の環境情報を見ることができる。

URL <http://www.pref.ehime.jp/kankyoku/k-hp/kankyoku.htm>

2 環境地理情報システム（環境GIS）

環境白書等に掲載している本県の環境情報等を地図上に重ね合わせて提供する「環境地理情報システム（環境GIS）」を構築し、インターネット上で提供する体制を整備した。

このシステムでは、環境教育・学習の振興や県民・事業者による環境保全活動の活性化を目的として、大気、水質等の観測データ、各種規制区域、自然公園区域等の区域データ、えひめ自然100選等の施設データ、文化財の名称・関連資料などの情報を、地図上のポイントをクリックすることにより呼び出すことができる。

URL <http://envgisv02.pref.ehime.jp/>

3 環境創造センターホームページ

環境創造センターの取組みや、客員研究員が持つ様々な研究情報をホームページへ掲載し情報発信するとともに、県民、県内外の環境研究者及び環境保全活動者との情報交換、交流の場として平成14年3月に整備した。

URL <http://souzou.pref.ehime.jp/>

4 愛媛県原子力情報ホームページ

県の放射線監視テレメータシステムで常時収集している伊方発電所周辺測定局の放射線データ（空間放射線線量率等）等を、県民に、リアルタイムで提供するため平成13年4月に「愛媛県原子力情報ホームページ」を開設した。

このホームページでは、上記放射線データ等に加え、伊方発電所の運転状況等の最新データ、伊方発電所の異常時通報連絡に係る県の報道発表資料、伊方原子力発電所環境安全管理委員会の開催状況等の原子力情報を、随時提供している。

URL <http://etelmtsv.pref.ehime.jp/>

5 地球環境の保全に関する情報提供

地球環境保全啓発用パンフレット作成・配布

- ・内 容 地球温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨 等
- ・部 数 等 B 5 判カラー 8 ページ 21,000部
- ・配 布 先 県下全中学生（3年生）等



「私たちの宇宙船、守るのも私たち！」

6 環境影響化学物質に関する情報提供

「私たちの暮らしと化学物質」（県民向けパンフレット）

作成・配布

- ・内 容 P O P s（残留性有機汚染物質）について
- ・部 数 等 年1回 2,000部
- ・配 布 先 一般県民



「私たちの暮らしと化学物質」

7 エコライフサポートルームの設置・運営

県民が行う環境に関する自主的な実践活動や学習・教育を支援するため、「エコライフサポートルーム」を開設している。

- ・事業内容 エコライフ推進員の設置による環境活動・学習の支援施設や設備の貸出しによる環境活動・学習の支援
- ・設置場所 県女性総合センター1階
- ・開設日 平成13年6月5日
- ・開設時間 9：00～18：00（月曜日、休日及び女性総合センター休館日は除く）
- ・運営方法 愛媛県自然保護協会へ委託

8 ごみ減量・リサイクルの啓発

ごみ減量・リサイクル推進週間（5月30日～6月5日）、リサイクル推進月間（10月）に併せて啓発用ポスターを作成し、市町村等に配布するとともに、環境教育の始まる小学校4年生を対象とした漫画パンフレット「ごみとリサイクル」や学習用CD-ROMの作成、情報誌「リサイクルえひめ」の編集発行などを通じて、ごみの減量化・リサイクルの推進について意識啓発を図っている。

9 愛媛県レッドデータブック作成事業

- ・目 的 県内において絶滅のおそれのある野生動植物をリストアップし、その希少性の評価、生息・分布状況を明らかにした愛媛県版レッドデータブックを作成することにより、県内の自然生態系を保全し、野生動植物の種の多様性を確保する施策及び県民の自然保護意識の醸成を推進する。
- ・事業期間 平成11年度～14年度

第3節 環境保全意識の高揚

1 「環境の世紀を拓く 循環型ゼロエミッション社会への出発」フェアの開催

環境の世紀といわれる21世紀を迎えるにあたり、行政や企業の取組みを紹介するほか、21世紀を担う子ども達や一般県民を対象に「環境」と「資源循環型社会」の大切さを訴え、県民の環境保全意識の高揚を図るため、愛媛新聞社や松山市などと共同してフェアを開催した。

- ・日 時 平成13年6月20日（水）～24日（日）
- ・会 場 松山市総合コミュニティセンター
- ・内 容 式典、シンポジウム（基調講演、パネルディスカッション）、こども環境会議（県内小学校の事例発表、意見交換）、展示会、フリーマーケットの開催など
- ・参加者 2万人

2 環境啓発ポスターコンクール

環境意識啓発用ポスターの原画を小・中学生対象に募集することにより、環境教育の一環とするとともに、県内各所に広く配布することにより、県民の環境保全意識の高揚を図った。

- ・募集対象 県内小学生・中学生
- ・募集期間 平成13年4月2日（月）～平成13年4月25日（水）
- ・応募点数 55点（小学生44点、中学生11点）
- ・最優秀賞 2点（小学生1点、中学生1点）
- ・優 秀 賞 8点（小学生5点、中学生3点）
- ・掲 示 「環境の世紀を拓く
循環型ゼロエミッション社会への出発」フェア
- ・内容等 最優秀賞を原図に、「ごみ減量・リサイクル推進週間」及び「ごみ減量化推進月間」の啓発ポスターとして利用した。

3 「国際地球市民シンポジウム in えひめ」の開催

環境問題に対する県民の意識を高め、激動するアジアなど地球的な視点に立った環境保全活動の体制づくりを進めるため、環境の分析・研究に関し世界的な評価を受けている愛媛大学と協力して、地球環境問題の現状と対策の動向についてのシンポジウムを開催した。



- ・日 時 平成13年11月6日（火）10：00～17：00
- ・場 所 全日空ホテル・エメラルドルーム
- ・参加者 研究者、環境関連の指導者、事業者、環境保全活動者及び県民
- ・主 催 愛媛県（環境創造センター）
- ・共 催 愛媛大学沿岸環境科学研究センター

・テーマ アジアの環境問題

・講演内容

- テーマ：「環境ホルモンの教訓：社会統治への挑戦」
講師：ジョン・ピーターソン・マイヤーズ
(環境保護に取り組むW・オールトン・ジョーンズ財団代表、「奪われし未来」の共著者)
- テーマ：「21世紀におけるアジアの環境問題」
講師：モンチップ・スリラターナ・タブキャノン(タイ国環境省副長官)
- テーマ：「北東アジアの野生生物保護」
講師：ピョン・オウ・ウォン(韓国慶熙大学名誉教授)
- テーマ：「カンボジアの環境変化と社会への影響」
講師：トフ・シアン・タナ(カンボジア内閣官房秘書官)
- テーマ：「環境ホルモンによるアジアの汚染」
講師：田辺 信介(愛媛大学教授)
- テーマ：「ヒ素によるベトナムの地下水及び上水道汚染」
講師：ファン・ハン・ベト(ベトナム国立大学環境技術開発センター所長)
- テーマ：「アジアにおける環境問題の現状と課題」
講師：寺西 俊一(一橋大学教授)

4 クリーン愛媛運動

- ・目的 豊かな自然と風土に恵まれたふるさと愛媛の住みよい快適な生活環境を創造する。
- ・運動内容 昭和52年度から7月をクリーン愛媛運動強調月間、また、国が定めた環境衛生週間(9月24日～10月1日)中を秋のクリーン愛媛運動実施週間とし、県民意識の啓発と県民総参加による河川、海岸、道路、公園等公共施設などの清掃美化活動を展開しており、平成13年度は、延べ約37万3000人の県民の参加を得て環境美化活動を実施した。

5 ふるさとづくり顕彰事業

地域住民、企業等が自主的・主体的に取り組んでいる地域特性をいかした地域づくり活動並びに地域の風土と調和し、優れた景観形成に寄与している建造物を表彰することにより、県民の地域づくりに対する意識の高揚を図るとともに地域づくり活動の促進を図った。

なお、平成13年度より、県民の全てが環境保全活動に参加する社会づくりの一環として、ふるさと愛媛創造賞の表彰対象に、環境学習活動(環境情報提供を含む。)及び環境に配慮した企業活動を加えた。

ふるさと愛媛創造賞(活動部門)

- ・目的 地域住民、企業等が自主的、主体的に取り組んでいる地域づくり活動の顕彰
- ・被表彰者 伊予鉄道株式会社(松山市)
城川町土居地区(城川町)
矢矧神社獅子保存会(朝倉村)

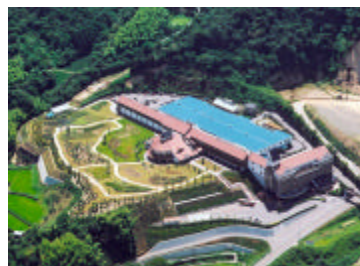
えひめアメニティ賞(建造物部門)

- ・目的 地域の優れた景観の形成に寄与している建造物の顕彰

- ・被表彰者 タオル美術館 A S A K U R A（一広株式会社）
中島町総合文化センター（中島町）
ゆらぎの森 巨大パーゴラ（別子山村）



城川町土居地区



タオル美術館 A S A K U R A

6 自然保護思想の普及啓発

県内のすぐれた自然を県民共通の財産として守り、育て、次の世代に引き継いでいくために、自然保護思想の普及啓発に努めている。

(1) 「えひめ自然に親しむ集い」の開催

直接自然とふれあう中で、自然に対する理解を深めるとともに自然保護意識の啓発を図るため、一般県民を対象に「えひめ自然に親しむ集い」を開催した。

- ・開催日 平成13年11月10日
- ・場所 吉田町ふれあい運動公園及びその周辺（吉田町）
- ・内容 基調講演、アトラクション、スライド上映、自然体験活動、草木染め
- ・参加者 約 230名



(2) 親子愛鳥教室の開催

豊かな自然の中で親子が一緒に野鳥とふれあいながら、野鳥に関する様々な知識を習得し、自然保護の大切さを理解できるよう、県内の小中学生とその保護者を対象に平成8年度から毎年「親子愛鳥教室」を開催しており、平成13年度の開催状況は次のとおりである。

- ・開催日 (第1回目)平成13年5月12日
(第2回目)平成13年10月27日
- ・参加者 各50名
- ・場所 (第1回目)西山興隆寺(丹原町)、中山川河口(東予市)、
県総合科学博物館(新居浜市)
(第2回目)開山公園(伯方町)及び大山祇神社周辺(大三島町)
- ・内容 野鳥の生態等に関する講義及びバードウォッチング

(3) 自然観察会の開催

県内にある県立自然公園等の豊かな自然の中で、動植物、地形・地質等の観察を通

じて、自然とふれあいながら自然についての認識を深めることにより、県民の自然保護意識を醸成することを目的に、一般県民を対象に平成5年度から毎年「自然観察会」を開催してきたが、平成12年度からは、市町村等が実施する自然観察会等の開催事業に対し助成を行っている。

平成13年度の開催状況は、表1-8-4のとおりである。

表1-8-4 自然観察会開催状況

実施市町村名	実施内容	参加者数
西条市	自然観察会、魚類・植物パネルの作成	118名
松山市	探鳥会、親と子の水辺教室、秋虫の声を聞く会	105名
野村町	おしどり観察会、溪筋川まつり、みどりの伝習所	326名

7 「かしこい省エネ家族」育成啓発事業

環境家計簿（家庭で消費する電気やガス、灯油、ガソリンなどの使用量や家庭から出されるゴミや缶、ピンの量を記帳することによって、各家庭の二酸化炭素排出量を計算できるもの）を普及させることで、家庭の省エネ意識の高揚を図り、環境に配慮したライフスタイルへの転換を推進するために、環境家計簿の作成、モニターの募集、省エネ・環境標語の募集を行った。

(1) 環境家計簿の作成・配布

えひめ環境家計簿（A4判、20頁）を4,000部作成し、地方局、市町村、消費者団体等を通じ、希望者に配布した。

(2) 環境家計簿モニターの募集

省エネや環境問題に関心の高い20歳以上の県民から50名の環境家計簿モニターを公募し、環境家計簿モニター講習会の受講、環境家計簿の記帳（夏季冬季各3ヶ月）及び記帳体験に基づく提言を求めた。

(3) 省エネ・環境標語（スローガン）の募集

・募集期間 平成13年9月1日～10月31日

・入賞 最優秀賞 1点 「省エネは手間を惜しまず 金かけず」

優秀賞 2点 「まだまだ使える よみがえる

ムダをはぶいてエコ生活」

「地球の愛し方、知っていますか？」

・最優秀賞標語は省エネ啓発パンフレットに掲載した。